



## 東海道57次を生かした広域連携の取り組みについて

亀山市では、東海道57次の宿場や街道に残る歴史・文化・食などの地域資源を活用し、東海道への誘客等を推進するため、令和6年に発足した沿線自治体で構成する「東海道57次区市町連携協議会」（事務局 静岡市）に参画し、東海道57次や亀山宿、関宿、坂下宿の魅力発信を行っています。

東海道の宿場は、江戸の日本橋から京の三条大橋を結ぶ道として歌川広重の「東海道五十三次」が広く知られていますが、江戸期の東海道は、京手前の髭茶屋追分で分岐し、伏見、淀、枚方、守口の4つの宿場を経て、大坂高麗橋へ至ることから「57次」と言われ、「京までの53次」と「大坂までの57次」が併存していました。

昨年、東海道町民生活歴史館の館長で57次の広域連携に取り組まれる志田威氏（元・JR東海専務）から静岡市蒲原宿とのご縁をいただいたことを契機に、他の宿とのつながりが広がってきたところです。

本年3月には、56番目の宿場町「枚方宿」のPRを官民連携により積極的に取り組まれてみえる枚方信用金庫様が、「東海道五十七次 三重の歴史街道と宿場町を訪ねる旅」を企画され、10日間にわたり総勢800人の方々に関宿を訪れていただきました。

さらに、今月17日には、東海道全体の宿場観光を促進するため、静岡市蒲原宿にある国登録有形文化財「志田家住宅主屋（志田邸）」で開催されました「東海道57次宿場パネル展」開催記念行事（静岡市主催）に出席しました。パネル展（9月27日までの土・日開催）では、城下町の風情を今に伝える「亀山宿」、東海道で唯一の重要伝統的建造物群保存地区である「関宿」、そして、鈴鹿峠の險所を控えた「坂下宿」という個性豊かな3つの宿場町を紹介しています。

今後も交通の要衝として東西をつなぐ役割が果たせるよう、東海道57次の広域連携を通じて、本市の魅力を発信し、新たな角度からの誘客や広域観光の振興、周遊促進に取り組んでいきます。

なお、東海道57次宿場パネル展の概要等については別紙資料のとおりです。